

第8分科会

「教職員の協働を推進するITを活用したコミュニケーション」

Aグループ 討議テーマ

「ITを活用した教職員の協働の可能性」

常盤大学	鈴木 基代	大東文化大学	佐々木 康志
東海大学	小清水 哲雄	青山学院大学	脇坂 剛彦
関西大学	三知矢 真希	東京女子医科大学	吉田 岳史
白百合女子大学	日高 さつき		

## 教職員の協働とは何か

- 何のために教職員の協働が必要なのか  
→ 教員・職員それぞれの情報を連携させることで相乗効果を期待
- 協働しないとどんな問題が発生するのか  
→ 共通認識がうまくいかない
- 協働の先には何があるのか  
→ サービス拡充、しいては学習環境整備が目的

## 各大学の現状(例)

- ①大東文化大学  
高校訪問記録の共有
- ②東海大学  
財務伝票の電子化
- ③青山学院大学  
シラバス入稿、成績入力、出欠管理、ポータル

## 協働を阻む要因

- システムで管理されることへの抵抗感
- 通常業務+ $\alpha$ の業務の発生による負担増  
(構築・サポート・ユーザー教育)
- 教職員間の信頼関係が希薄  
→ 教員は職員が何をしているか見えない、  
職員は教員が何をしているか見えない

## 協働を推進していくためには

- 利用価値・メリットを出していく  
→ 効率化が図れる、便利になる...
- 成果をフィードバックする仕組みの構築
- 教員と職員、教員同士、職員同士の情報交流の場を設ける  
(それぞれが持つ情報のマッチング→付加価値)

## IT活用によるメリット・デメリット

### 【メリット】

- ・時間と場所にとらわれないコミュニケーション
- ・情報の一斉発信が可能
- ・業務の効率化

### 【デメリット】

- ・対面コミュニケーションの希薄化
- ・メンテナンス・サポート業務は増える

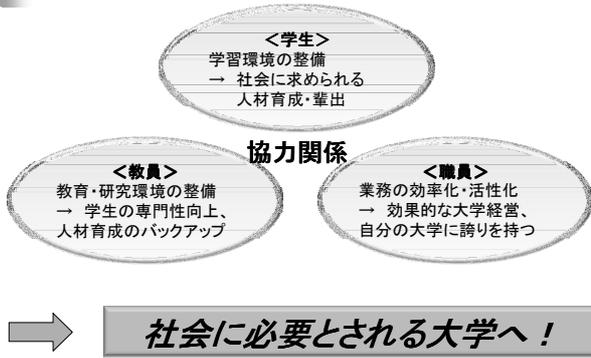
## コミュニケーションツールによる協働を推進するにあたって (導入段階)

- 利用者目線に立ったコンテンツ  
→ 利便性と操作性
- 運用ポリシーとガイドラインの策定  
→ 円滑な運用と不正防止
- 教職員の意識改革  
→ ある程度のトップダウン・危機感が必要  
(GPなどがきっかけ)

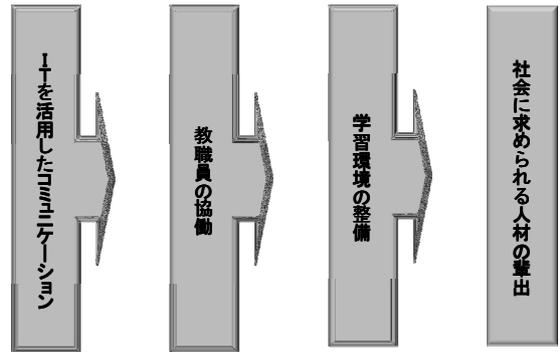
## コミュニケーションツールによる協働を推進するにあたって (運用段階)

- 運用方法の周知・浸透・活用  
→ 働きかけが活用につながる
- きめ細かなユーザーサポート  
→ 継続的な利用につながる
- 定期的なリニューアル(機能強化)  
→ ユーザーの声を反映

# 協働によって実現できること



# まとめ



# 大学職員情報化研究講習会 ～応用コース～

第8分科会  
教職員の協働を推進するITを活用したコミュニケーション  
(Bグループ)

聖心女子大学 鳴戸 玲子 西南学院大学 井出 夏夫  
熊本学園大学 河上 和博 東北学院大学 中道 浩司  
甲南大学 西村 智子 立正大学 岩附 良太

**JUCE** 社団法人私立大学情報教育協会  
Japan Universities Association for Computer Education

## 全体像

コミュニケーションを阻害する要因

大学内のコミュニケーションにおける職員の立場

Bグループで考えた結論

おわりに(まとめ)

## コミュニケーションを阻害する要因

1. 大学の規模
  - ・大きい大学の問題
  - ・小さい大学の問題
2. 複数キャンパス
  - ・キャンパス間の連携
3. ITスキルの差
  - ・デジタルデバイド(特に教員)
  - ・ITツールを使ってくれない

## 職員の位置づけ

1. 大学における職員のポジション
  - ・認知されているか?(誰に?)
  - ・教員と対等に接するためにITを活用
2. 専任職員以外の職員
  - ・派遣職員とのコミュニケーション
3. 部署によるコミュニケーションの必要性
  - ・必要な部署と必要でない部署の差

## ITを使ったコミュニケーション

ITを使ったコミュニケーションを推進して協働を促すために...

## コミュニケーションを補完するものとしてのITツールとは?

◆統合ポータルサイト◆

◆携帯電話の活用◆  
～総合ポータルサイトの補完的な役割～

## 我々が考えた理想のポータルサイト

**Bグループポータル**

- コミュニケーション自己紹介 SNS
- 情報共有 共有ファイル
- 事務手続き 手続き 出退勤 学内地図

呼び出し

お知らせ

スケジュール

施設予約 | アドレス帳 | 電話帳 | 使い方マニュアル

ポイント: 強制力! (ITツールを使わないと困る状況を築くこと)

## ポータルサイトの導入により、期待される姿とは

### 情報共有

- ・ポータルサイトに様々な情報を掲載することで、できる限り多くの情報を得てもらう。
- ・個々にサイト等を設置しては、見てもらうきっかけが少ない。  
(例) 新任教員の紹介、新しい学部の教育方針、職員課外活動の紹介、など

### 教職員のコミュニケーションの活性化

- ↓ 顔、名前の一致(個の認識)、共通点の発見、情報交換

### 親密度アップ、連帯意識へ

### 教職員の協働 ⇄ 信頼関係アップ

- ・相手のことを知っている、事務やりとり等がスムーズになる。
- ・相手の性格等を理解することが可能となり、一緒に仕事しやすくなる。
- ・教職員個々の強みや弱み等の把握が可能となることにより、大学におけるそれぞれの役割期待が明確となる。
- ・大学規模の取り組み、他学部等の取り組みに協力したい・応援したいという意識が強くなる。

## おわりに(まとめ)

### 1. ITはコミュニケーションを補完するもの

・「補完する」ものであって、これでコミュニケーションは完結しない(会話をしてはじめて個人を認識)

### 2. 教職員間の協働＝「教育研究支援」

・教員と職員が協力するのは学生のため